

## 第16回静岡県畜産堆肥共励会・耕畜連携交流会開催結果

平成26年10月23日、菊川市の菊川文化会館「アエル」において、第16回静岡県畜産堆肥共励会・耕畜連携交流会が開催されました。畜産農家、耕種農家、県立農林大学校、畜産関係機関等から100名余の参加者がありました。

共励会堆肥は酪農の部34点、肉牛の部25点、養豚の部13点、養鶏の部14点、その他の部1点の87点が出品されました。

審査は畜産技術研究所、同中小家畜研究センター、農林技術研究所、静岡県経済農業協同組合から各1名の審査員4名と特別審査員として茶、果樹、野菜、水稻、花卉の農家10名の14名により行われました。

### 受賞者一覧

#### ○最優秀賞（静岡県知事賞）

酪農の部 森のゆうき生産利用組合（森町）

#### ○優秀賞（静岡県畜産堆肥共励会会長賞）

酪農の部 松下善洋（富士宮市）

肉牛の部 山名邦雄（島田市）

養豚の部 スワイン堆肥生産利用組合（牧之原市）

養鶏の部 （有）清水養鶏（静岡市）

#### ○最優秀特別賞（静岡県議会議長賞）：特別審査員による選出

酪農の部 堆肥工房文殊（静岡市）

#### ○優秀特別賞

茶（養豚の部）良知 吉尋（牧之原市）

果樹（肉牛の部）佐藤 哲郎（富士宮市）

野菜（肉牛の部）杉村 昭彦（島田市）

水稻（肉牛の部）山崎 信幸（菊川市）

花卉（酪農の部）あさぎり有機リサイクルシステム（富士宮市）

## 審 査 講 評

審査長 知久 幹夫（畜産技術研究所中小家畜研究センター資源循環科長）

現在、畜産物の相場はやや高く推移しています。これに影響を及ぼす要因として円安、アメリカ、オーストラリアの干ばつによる飼料作物の生産量の減少、肉牛の淘汰、日本でも豚流行性下痢 (PED) による出荷頭数の減少等があります、いずれにしても、情勢的には不安定要素が多いと言えます。TPP 交渉の行方も懸念される場所でもあり、今後、ますます経営強化が必要となってきますが、飼料の自給率向上、耕畜連携といった方面での取り組みの必要性が高まっています。

今回の共励会の出品点数は、酪農の部で 34 点、肉牛の部で 25 点、養豚の部で 13 点、養鶏の部で 14 点、その他の部で 1 点でした。審査は例年通り「静岡県畜産堆肥共励会審査基準」等に基づき、色、臭い、形状、水分、成分について行いました。また、特別審査員として耕種農家の代表の方々に、堆肥を使用する立場から施肥してみたい堆肥を選んでいただきました。

今回の出品堆肥は品質が良く入賞した堆肥は、いずれも均質で十分腐熟も進み臭いもなく成分に優れていました。今回の堆肥は概ね腐熟の進んだものでしたが、一部の堆肥ではチップ等木質系の副資材の投入量が多すぎ糞は熟していますが、副資材の腐熟が不十分で利用しにくいと考えられるものが散見され、この点は今後改善が必要です。

現在、畜産堆肥に対する耕種農家の要望は、作目・施肥方法等の違いによって大変幅広くなっており、臭いのないこと撒きやすい形態であること副資材の種類に好みがあること等、いろいろな希望があることがわかります。耕種農家の要望に合った堆肥づくりが重要となっています。

現在、畜産堆肥の利用に期待が高まっています。特にリン酸、カリなどの成分も注目されています。循環型社会の構築のため堆肥需給のバランスも必要です。特別審査員の選んだ堆肥の生産者をその作目の耕種農家に紹介して使っていただき、この場で報告していただく、そういった取り組みも必要ではないかと感じています。そういう点でこの共励会、耕畜連携交流会の持つ意味は大きいと思います。

最後に、県では家畜糞尿の肥料成分の有効活用、肥料費低減、堆肥の流通量増加等のための研究を計画、実施しております。成果につきましては、また紹介していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

今後も、畜産農家の方の良質堆肥生産とともに、耕種農家の方の畜産堆肥の利用促進を願ひまして、審査講評とします。

## 耕畜連携交流会

### 1 講演会

#### (1) 畜産堆肥を活用した施肥について

農林技術研究所茶業研究センター生産環境科長 松本 昌直先生

要旨：畜産堆肥の継続した長期間使用は、茶園の土壌を通気性がよく、根が伸長しやすい状態にする。ただし、使用する家畜により成分が異なることから、その家畜の特性を十分に理解して行う必要がある。

#### (2) 県内畜産堆肥の品質について

畜産技術研究所飼料環境科上席研究員 佐藤 克昭先生

要旨：堆肥の成分については、最近の研究成果により易分解性の成分量を把握することが可能となった。堆肥の施用の目的により使用する家畜を選択する必要がある。リン酸、カリなどは資源が限られており畜産堆肥を活用により肥料費の削減が可能となっている。

#### ○農林技術研究所茶業研究センター

〒439-0002 菊川市倉沢 1706 の 11

TEL 0548-27-2883 (生産環境科)

FAX 0548-27-3935 (茶業研究センター共通)

#### ○畜産技術研究所

〒418-0108 富士宮市猪之頭 1945

TEL 0544-52-0146 (代表)

FAX 0544-52-0140 (畜産技術研究所共通)

### 2 交流会

畜産技術研究所飼料環境科上席研究員佐藤克昭氏をコーディネーターとして、パネラーに農林技術研究所茶業研究センター生産環境科長松本昌直氏、畜産技術研究所中小家畜研究センター上席研究員石本史子氏、耕種農家代表として菊川市茶農家の山本浩三氏、畜産農家代表として御前崎市肉牛農家の杉浦浩務氏として、畜産堆肥の利用方法や生産方法等について意見交換を行った。

様々な意見が出されたが、畜産堆肥は耕種農家が利用しやすいように畜産農家が生産すること。作目や施肥の目的により施用する畜産堆肥を選択することなどが、これからの畜産堆肥活用を推進するに必要であるとの意見であった。